

◆ 今週のコメント

- ・ 風しんの報告が1例(女性, 40歳代)あります。症状は発熱, 発疹, リンパ節腫脹で, ワクチン接種歴があります(14歳の時に1回接種)。平成20年に全数把握疾患に変更されてから, 年間累積報告数は, 0～1例で推移していましたが, 本年はすでに13例と非常に多くなっています。性別は, 女性6例, 男性7例, 年齢群別では, 40歳代が6例と最も多く, 次いで20歳代3例となっています。
- ・ 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は6.88(282例)で, 第21週(5月21日～5月27日)以降連続して減少していますが, 依然として過去5年平均値を上回っています。
- ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は2.12(87例)で, 先週(2.80)より減少しましたが, 依然として過去5年平均値を大きく上回っています。
- ・ ヘルパンギーナの定点当たり報告数は0.56(23例)で, 先週(0.12)に比べ大幅に増加しました。年齢階級別では, 1歳が52.2%を占めています。例年7月から9月にピークとなりますので, 今後の動向に御注意ください。

◆ 今週のトピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>

腸管出血性大腸菌感染症の報告が4例あり, 年間累積報告数は8例となっています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類: 結核 11例(肺結核 3例, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 7例)うち喀痰塗抹陽性 3例
【1月以降の累積報告数 199例(肺結核 83例, その他結核 42例, 潜在性結核感染者 74例)うち喀痰塗抹陽性 46例】
- ・ 三類: 腸管出血性大腸菌感染症 4例【1月以降の累積報告数 8例】
- ・ 四類: レジオネラ症(肺炎型) 1例(第19週追加)【1月以降の累積報告数 3例】
- ・ 五類: 梅毒(早期顕症梅毒) 1例【1月以降の累積報告数 3例】
- ・ 五類: 風しん 1例【1月以降の累積報告数 13例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0.04	3
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	6.88	282
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.12	87
	③ 水痘	1.22	50
	④ ヘルパンギーナ	0.56	23
	⑤ 突発性発しん	0.49	20
眼科	流行性角結膜炎	0.20	2

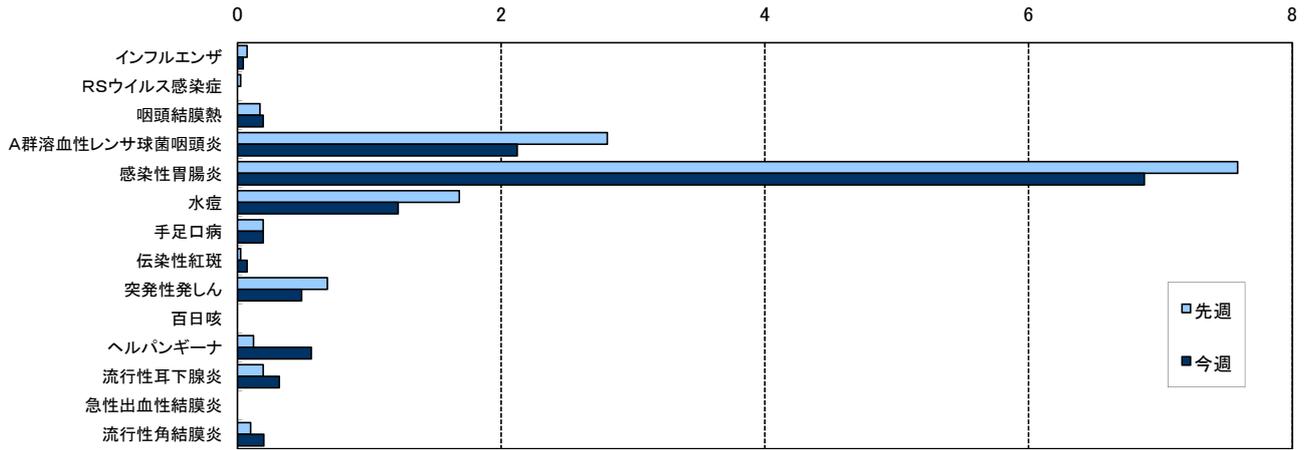
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>

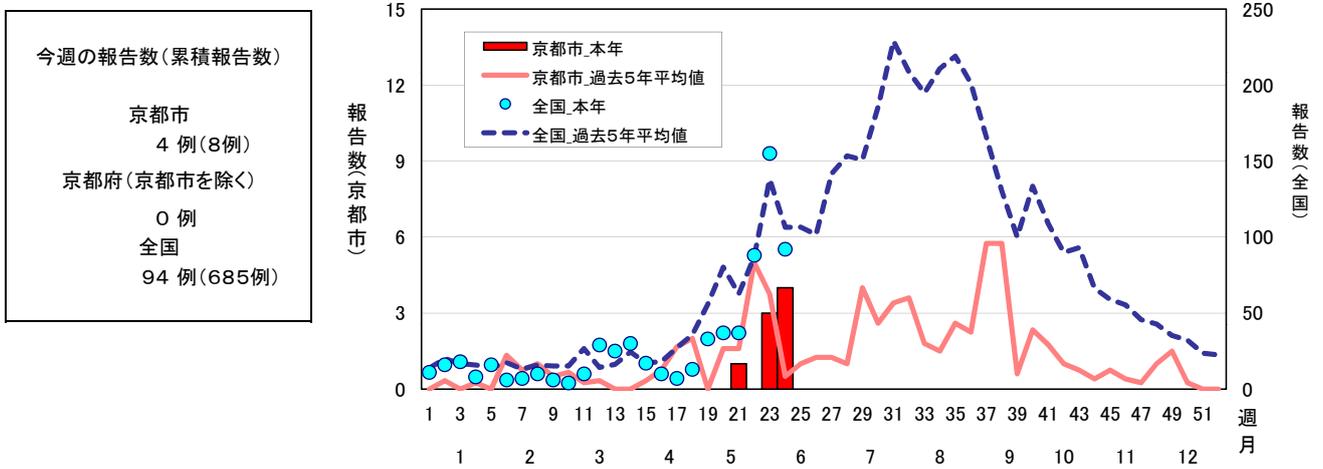
(注) 京都市のデータは, 平成24年6月21日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第24週)と先週(第23週)の定点当たり報告数の比較

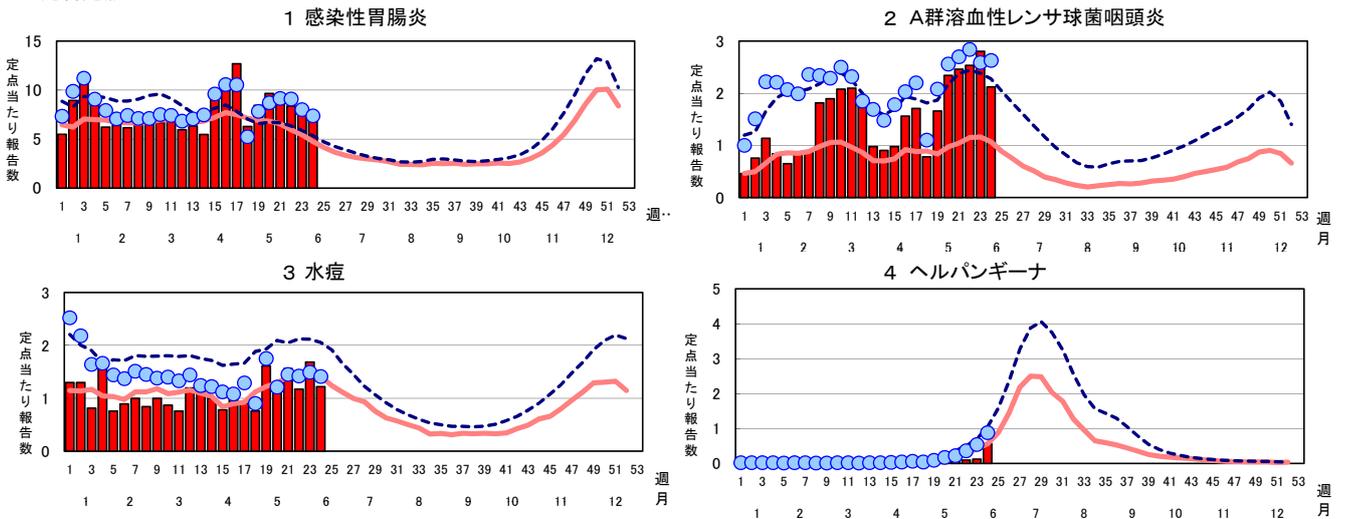


2 腸管出血性大腸菌感染症の推移

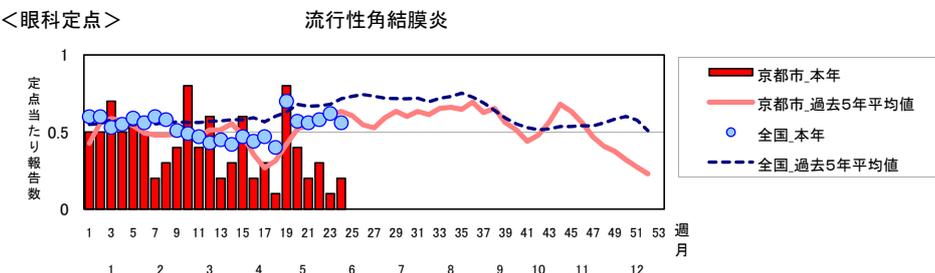


3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



第24週(6月11日～6月17日)トピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>

腸管出血性大腸菌感染症の報告が4例あり、年間累積報告数は8例となっています。散発6例、家族2例で、性別は女性5例、男性3例です。年齢群別では、0～70歳代の幅広い年代で報告がありますが、10歳代が3例、20歳代が2例となっています。

血清型(毒素型)は、O157(VT1・VT2) 5例、O145(VT1) 1例、O165(VT2) 1例、HUS(溶血性尿毒症症候群)発症で血清型不明 1例となっています。

推定感染経路は、経口感染が5例(うち1例は、生焼けの肉やレバーで、その他は不明)、原因不明が3例となっています。

本市及び全国の過去の報告数の推移をみると、7月から8月に報告数が増加していますので、今後の動向に御注意ください。

本市における診断年別 型別報告数

診断年	合計	O26	O86	O91	O103	O111	O121	O145	O157	O165	その他
平成11年4月以降	26								25		O1が1例
平成12年	33	8							25		
平成13年	52	8				1			43		
平成14年	35				1				32	1	型別不明が1例
平成15年	101	5							96		
平成16年	48	2					4		42		
平成17年	36	5		1					30		
平成18年	57	2					1		54		
平成19年	54	2				3			49		
平成20年	86	34			5	2		3	41		HUS患者で型別不明が1例
平成21年	93	8		1		3	1	1	79		
平成22年	34	1			1	2			30		
平成23年	34		1			1		1	30		HUS患者で型別不明が1例
平成24年第24週まで	8							1	5	1	HUS患者で型別不明が1例

本市及び全国の報告数の推移(平成23年～平成24年第24週) 平成24年6月22日現在

